

【菜の花だよりのお届けが大変遅れましたことお詫び申し上げます】

東日本大震災で被害にあわれたすべてのみなさまに 心からお見舞いを申し上げます



大名美恵子議員

なにげない日々の暮らしを突然おそったマグニチュード9、震度6弱(東海村)の大地震。3月11日午後2時46分、長いながい(と感じた)大揺れは私たちを恐怖のどん底に突き落としました。変わり果てた村の光景。あつてはならない原発の過酷事故。続発する余震…。心休まらない毎日です。

みなさまにはいかがお過ごしでしょうか。心からお見舞いを申し上げます。

私は、役場5階で大地震に遭遇し、庁舎内のただならぬ状況に、「住民の方々に怪我などないだろうか、火災はおきていないだろうか」早鐘がうつ胸中でした。そして築46年の自宅で寝たきりになっている父の安否を想い帰路につきました。渋滞と通行止め迂回に驚きながらやっと辿りつき、80歳の母とともにお隣の方の力をお借りして、父を車椅子に移し避難所の中丸コミセンへ向かいました。

避難所生活では村の課題がたくさん見えました。すぐに対応すべき課題は災害対策本部に直接届けたり、要望書にして提出したりと、被災された方々の声を災害対策に反映させるよう求めました。

また、被害の大きかった方々をお訪ねし、安否の確認と要望を伺いました。しかし、そのとりくみはまだまだ不十分で“みなさんのお元氣な姿を早く確認させていただかなくては、”と、自分に

らだちをおぼえています。

遅れていますこと申し訳ございません。

東電福島第一原発の惨状から、原電東海第二発電所の被災状況も確認しなくてはと、4月4日、隣接の日本共産党市議や県議などで原電に直接聞き取りする日程の確保を申し入れました。

しかし、原電からの回答がなかなか届かず、申し入れから1ヶ月半の5月12日にやっと対応するとの連絡が入りました。

安全・安心の「福祉と防災のまちづくり」をごいっしょに!



不通になった駅東五反田線片側

未曾有の東日本大震災は、安全・安心のくらしのために、福祉豊かなまちづくりとともに、“災害に強いまちづくり”の緊急性も明らかにしました。「東海村地域防災計画」は、抜本的に見直しが必要になっています。私は、被災者救援と災害の復旧支援に力をつくすとともに、みなさんと力をあわせて「福祉と防災のまちづくり」にとりくんでまいります。ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



柱が内側、外側から損壊した東海中

大地震を経験しより鮮明、消防は村単独でこそ村民の利益にかなう

広域化容認の11年度当初予算一日本共産党は反対

2011年
3月議会から

3月議会は、24日、すべての議案審議を行い閉会しました。全員の一般質問が終わった11日の午後、大地震が発生しました。翌週あけから予定していた予算特別委員会は、期日を延期し、通常3日間かけるところ1日で終わりました。新年度当初予算案のなかで容認できなかったのは、東海村消防本部をひたちなか市消防本部と統合させ、2012年度(平成24)からひたちなか・東海広域事務組合消防とするための予算が含まれていたことでした。

その内容は、ひたちなか市消防が指令に関わる装置をデジタル化することにあわせて、本村消防もデジタル化するという予算です。統合後の本部は、現ひたちなか市消防本部になるとのことで、そこからの指令を受けることを想定して東海村もデジタル化するというものです。住民の財産である本村消防の大変きめ細かい活動が、広域後はできなくなってしまいます。さしあたって危惧される点を書き出します。



救助訓練の様子
(消防HPより)

- ①現場に到着するまでの時間が、現在より遅くなる件数が増える可能性が高くなります。
- ②村消防が現在行っている「東海村特定在宅療法等に関する登録制度」の継続が、困難になることが考えられます。
- ③ひたちなか・東海で1つの消防本部ですから、仮にひたちなか地域から東海病院への搬送と東海地域からの搬送が重なった場合、東海地域の受け入れは困難ということも考えられます。
- ④東海村にある消防署から出動した救急車が水戸方面の病院に搬送し、東海村に戻らない時点でひたちなか地域で発生した救急の出動要請が出されれば、またその場からの出動となり、東海村に一時救急車不在ということも考えられます。(他にもたくさんあるでしょう)

大名議員の3月議会一般質問など

3月議会では、みなさまからお寄せいただいた声をもとに、11の一般質問を行いました。一部、ご報告いたします。



東海村の「国際化」推進とはなにか 住民の意思はどうか



答弁 村を国際化する意義は、①原子力センター構想で村の国際的評価が高まり世界からさらに人々が集まると新たな投資が期待でき新たな活性化につながる。②世界から来村者がふえれば、世界の新しい文化や価値観が豊富に入り、その一部は既存の価値観と融合し新しい多様な価値観が生まれる。そして村民のライフスタイルやワークスタイルにより影響を及ぼし多様化する中で、村民個人、村、村内の企業にとり有意義な新しい付加価値を見つけ創造でき、村の発展につながる。③東海村は国際貢献できる原子力の人材、技術あるいは施設・設備を保有しているので、まちの国際化、オープン化というものをあわせて進めることで、まちとしての強み弱みも認識できる。

大名 国際化は村民にとって必要なのか、村民との議論はまだおこなっていない。村民が何を望んでいるか、そこをぜひやっていただきたい。

グランドゴルフ練習場の新たな確保が必要ではないか

答弁 練習はどこでもできるのが特徴。認定コースでは約1,500平方メートル、8コースが必要。役場わきのコースの場合、200平方メートルで16コース。このように専門コースの設置となるとある程度の広い面積が必要。練習場の確保としては、運動場や広場という点から見れば小中学校の校庭も十分に対象になることから、地区の希望があれば校庭の空き時間を使った利用が可能かどうか、学校側と検討していきたいと考える。

大名 身近な場所でプレーが楽しめるよう配慮することが大変重要。新たな場所確保については、あらゆる可能性を検討されることが賢明かと思う。学校との協議も含め、何より関係者のご意見を伺い十分協議の上、確保に向けた尽力が求められている。



大地震・大津波の安全対策を怠ってきた 政府と原発推進業界

東日本大震災では、大地震・大津波による被害に加えて、東電福島第一原発の原発震災が深刻になっています。日本共産党や原発の問題を真剣に考える住民団体などがかねてより心配をしていたことが現実のものになってしまいました。

旧動燃の火災爆発事故、JCO臨界事故と大事故を2度も経験してきたわが国政府及び原子力推進各界は、それでも「安全神話」にしがみついています。

国会では、日本共産党の吉井英勝衆議院議員が、以前から大地震と大津波によって、原発の冷却危機とその電源設備が破壊されたことによって引き起こされる危険を、理をつくして警告してきました。しかしそれは無視されてきました。「そのような事故は起こるはずない」と、備えを怠ってきた重大な「人災」は、福島第一原発の「炉心溶融」という大変な事態です。

政府・電力会社等は、原発の「止める」「冷やす」「閉じ込める」この機能が働くから大事故にはならないと言ってきましたが、完全に機能破綻を示しています。

運転開始33年目の東海第2原発は、定検に6ヶ月を費やし部品交換や、シュラウドサポート部に40箇所ものひび割れがあるほか、老朽化の現象が顕著です。余震が続くなか運転は大変危険と考えます。

東海第二の被災状況を聞き、32年経過し老朽化がすすむ同原発の廃炉を要請

—党県委・県原発を考える会



12日。“あわや”の状況だった東海第2原発の被災状況を聞く党県市村議員らと、茨城県原発を考える会の一行

大震災後も海外視察・委員会の行政視察の中止を決められない村議会運営委員会

3月23日に開かれた議会運営委員会では、日本共産党会派がすでに申し入れていた「海外視察の中止」について話し合われました。共産党以外のすべての会派代表の委員は、「我々が決めることではない。来年1月に行われる村議選で選ばれた新しいメンバーが決めることだ」といって、結論を出すことを避けました。

これほどの震災を受けたあとにもかかわらず自分達の問題ではないとする姿勢は、本当に税の活用を村民生活支援最優先とする立場にたっているのか疑問です。

また、5月9日に行われた議会運営委員会で、「委員会の行政視察を今年はどうするか」の議題で、共産党は「中止し、その費用を復旧に充てるべきだ」と主張しましたが、他の委員は、「決めるのはそれぞれの委員会だ」として、結論を避けました。なかには、「自粛ばかりでなく、出かけることも地域経済の活性化につながるから良い」という意見を述べた委員もいて、税の活用をなんと心得ているのか、あきれてしまいました。

この期に及んでも誠実さが感じられない原電の対応

行政からの『安全に止まっているのでご安心ください』の放送では「安心できない」というみなさんの声にもとづき、「東海第二の被災状況を聞き取りたい」と、申し入れたのは4月4日。しかし、原電は「震災対応で忙しい」を理由に、返事をしてきませんでした。やっと返事があったのが4月27日。「5月11、12、13日のいずれかの10時30分から正午まで」というものでした。

原電はこの間に、震災後の対策や、住民への周知(説明書の新聞折込)、住民説明会の日時決定、運転再開やプルサーマル計画に関する記者会見を済ませました。その上で聞き取りに応えるというものです。

3月23日には、村議会へ説明をしていますのでできないはずがありません。原電の住民の声に背を向けた傲慢さが伺えました。